



## 説教要旨「神の秘められた計画」

イザヤ書 59 章 12～20 節

ローマの信徒への手紙 16 章 25－27 節

「背きの罪はわたしたちと共にあり わたしたちは自分の咎を知っている。」

(イザヤ 59:12)

預言者イザヤは、自らの罪を知る人でした。それは、神に報復されたならば、もはや滅びから逃れる道はないように思えるほど大きな罪です。しかし、それでも救いの道は完全には閉ざされていません。「主は贖う者として、シオンに来られる。ヤコブのうちの罪を悔いる者のもとに来ると 主は言われる。」

(59:20) 私たちには贖いきれない罪を、贖うものとして主が来てくださるといふ、救いの約束が与えられているのです。

伝道者パウロは、ローマの信徒への手紙の最後を、神を賛美することによってこの手紙を締めくくっています。そこでパウロは、「この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。」(ローマ 16:25)と告げています。パウロの言う福音、即ちイエス・キリストについての宣教において神は、秘められた計画が現わされました。それは、罪人である私たちを救いに導くための計画です。そのために神は、ご自分の独り子イエス・キリストを遣わし、御子が私たちの全ての罪を背負って十字架にかかれることによって、私たちの罪を赦して下さったのです。それは、神が私たちをどこどこまでも愛するがゆえに練られた計画であり、その計画はずっと隠されていたけれども、それが今や、イエス・キリストにおいて現されたのです。

イエス様が、私の罪を負って十字架にかかって死んで下さった。そしてこの私が神の子とされて新しい命を生きるために復活して下さった。もはや死の力も、この神の愛から私を引き離すことはできない。私たちがそのことを信じる時、神さまが私たちを導いてそう信じさせて下さる時、私たちは本当の意味で強い者とされます。そこで私たちに与えられる強さ。それは人の罪の告白を受け止めることではないでしょうか。自分が数々の罪を犯してきて、どうしようもない人間であっても、できることはあります。むしろ罪深い人間だからこそできることなのです。

(2020・12・6 説教者：稲垣真実)